



原島 博 (はらしま ひろし)
1945年～ <http://harashima-lab.jp/>

1945年9月12日、終戦の年に東京に生まれる。1973年に東京大学大学院工学系研究科博士課程を修了して、同年東京大学工学部専任講師就任。東京大学大学院情報学環長・学際情報学府長などをつとめて、2009年3月に東京大学を定年退職した。現在東京大学名誉教授。

もともとは情報理論を中心とする数学の理論の美しさに魅せられて研究者となったが、一貫してコミュニケーション工学を専門として、人と人とのコミュニケーションを、リアルとバーチャルの両側面から技術的にサポートすることに関心を持ってきた。

この立場から、1990年に電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション研究会(現在はグループ)、1995年に日本顔学会設立の中心になった。また2000年には東京大学大学院情報学環・学際情報学府の設立に尽力し、文系と理系さらには科学と芸術を融合した新しい学問体系の構築に貢献した。定年後は東日本大震災の直後の2011年6月から、個人講演会として私塾(HC塾)を毎月開いている。2024年から原島博講義録シリーズ全十巻「俯瞰する知」を順次刊行中。

<社会的な活動>

総務省情報通信審議会委員、電波監理審議会会長、情報理論とその応用学会会長、日本顔学会設立発起人代表・会長、日本バーチャルリアリティ学会会長、映像情報メディア学会会長、情報通信技術委員会代表理事会長などを歴任。

<主要著書>

「デジタル信号処理」電子情報通信学会、共著(1975)、「情報と符号の理論」岩波書店、共著(1983)、「画像情報圧縮」オーム社、編著(1991)、「感性と情報処理」共立出版、共著(1993)、「仮想現実学への序曲」共立出版 bit 増刊、編著(1994)、「ヒューマンコミュニケーション工学シリーズ」オーム社、企画監修(1994)、「インターネット時代のマルチメディア技術」アスキー出版局、監修・共著(1996)、「人の顔を変えたのは何か」河出書房新社、共著(1996)、「顔学への招待」岩波書店、単著(1998)、「工学基礎ラプラス変換とz変換」数理工学社、共著(2004)、「超臨場感システム」オーム社、編著(2010)、「顔の百科事典」丸善出版、編著(2015)、「信号解析教科書ー信号とシステムー」コロナ社、単著(2018)、「信号処理教科書ー不規則信号とフィルターー」コロナ社、単著(2019)、「ビジュアル顔の大研究」丸善出版、監修(2020)、「情報の時代を見わたす」工作舎、単著(2024)、「宇宙138億年から学ぶ」工作舎、単著(2024)など

<受賞>

電子情報通信学会(米沢記念学術奨励賞1973、論文賞2回1990 1992、米沢ファウンダースメダル受賞記念特別賞1990、業績賞2回1980 1992、フェロー2000、功績賞2015)、テレビジョン学会・映像情報メディア学会(論文賞1990 2008、藤尾記念賞1997、著述賞2001、業績賞1994、功績賞2008)、日本バーチャルリアリティ学会(特別貢献賞2006)、電気通信普及財団賞(テレコムシステム技術賞1969)、国際AI財団学術業績賞1992、市村学術賞功績賞1993、テレコム功績賞1992、志田林三郎賞1997、情報通信月間総務大臣表彰2002、東京都技術振興功労表彰2007、産学官連携功労者表彰総務大臣賞2012、文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)2013、日本放送協会放送文化賞2015、電波の日総務大臣表彰2015、芸術科学会 Art and Science Award 2016、高柳健次郎賞2022など